

第55回東海村地域福祉計画推進会議

議事録

- 1 日 時 令和2年8月28日（金） 午後5時30分～午後7時30分
- 2 場 所 原子力視察研修室
- 3 出 席 者
- ・地域福祉計画推進会議委員（別紙名簿のとおり）
 - ・アドバイザー：稻垣美加子先生（淑徳大学教授）※Web会議出席
 - ・事務局：大内課長、山口補佐、渡邊係長、飛田主任、福島主事、黒羽

結 果（要点）

- （1）第3次地域福祉計画総合評価（住民評価）勉強会について
事務局から、配布資料に基づき、住民評価の方法について説明した。
⇒グループ（A、B）に分かれ、住民評価の視点について意見交換を行い、実際の評価様式を用いて評価の練習を行った。
⇒事務局で練習用の評価用紙を回収し、評価内容を実際に点数化。模擬的に住民評価結果を出した。
- （2）第4次地域福祉計画 基本理念・基本目標について
前回の協議内容をもとに基本理念・基本目標について事務局案を提案した。
⇒基本理念・基本目標について委員承認。
⇒次回の会議ではさらに具体的な施策について意見をいただきたい。
- （3）その他
事務局から、行政評価について説明する機会を設け、その結果をもって住民評価につなげるため、9月に会議追加を提案。
⇒委員承認
次回推進会議は、令和2年9月16日（水）午後5時30分から原子力視察研修室で開催することとなった。
合わせて9月以降の推進会議は、令和2年10月19日（月）に検討しているため、各委員にはスケジュール調整をお願いしたい。

1 開 会

2 委員長あいさつ（深谷委員長）

皆さんこんばんは。巷の噂では安倍首相が辞意表明するそうだが、コロナの中で頑張ってきたところではあるが、日本が少し冷え込んできてしまいそうなので、せめてこの会議は元気に開催して、東海村の福祉に関して色々発信していければと思う。自分も病気で辞めることがないように頑張っていきたいと思う。本日もよろしくお願ひする。

3 アドバイザーあいさつ（淑徳大学教授 稲垣 美加子 先生）

皆さんこんばんは。このような状況の中で皆さんになかなか会えない。便利なのか不便なのかわからないが、皆さんのお声を聞きながら、できれば発言している方に画面を向けていただき、皆さん一人一人のお顔を拝見しながら進めていけると嬉しい。

今回の会議では難しい内容である「評価」に入っていく。皆さんに頑張ってと言ったら大変失礼かもしれないが、御協力いただきたい。このコロナの状況でここから先、社会の中で支援を必要とする人が増えると思う。従来からうじて自立を保っていた人が生活困難になる。生活や家族、経済的、様々な基盤の弱い方ほど今回ダメージを受ける恐れが見えている。

だからこそ、この評価にあたって苦労されると思う。しかもこのコロナの状況で周りの方と会って話を聞くことは難しいと思うが、ぜひ周りの方の意見を集めていただきたい。特に今まで支援を活用したことがなく、自分で立っていることがしんどくなっている方を見かけたら、ぜひその方たちの声にならない思いを汲み上げて、この評価につなげていただきたい。厳しい状況の中だが、御協力いただくようよろしくお願ひしたい。

4 自己紹介（鈴木雄大委員）

5 議 事

（1）第3次地域福祉計画総合評価（住民評価）勉強会について

事務局から配布資料に基づき基本目標1について説明を行った。

【事務局】

- ・資料1について資料1～7と記載したが、資料1～5に訂正願いたい。
- ・総合評価に向けて、本日は実際の評価様式を用いて評価方法について練習していきたい。

【稻垣先生】

「タスク・プロセス・パートナーシップ」など難しいと思うが、結果は出なかったがそのプロセスで協力できることがあったり、逆に、なぜかわからないがうまくいったということがあるため、結果と途中経過の両方に評価を加えるということで、タスクとプロセスの評価を分けている。また、東日本大震災の際に「絆」という言葉が言われ、社会の中での孤立無縁化が様々なところで問題になっている。だからこそ「つながる」ということが今とても大事なため、地域の中の課題を解決したり、地域の強みを活かしていくときに、官民の協力、民民の協力、そのようなパートナーシップが色々なところにつながり、厚みや多様性を持っていくと、何かに取り組もうとしたときにより一層取り組みやすくなっていく。そのため、この評価は少し複雑になっているが、一般的にはどの程度の成果が上がったかを評価しないとならない。ただ、皆さんと一緒にやっていき

たいのは、東海村の地域づくりである。だから一緒にやっていくことで、「目的は達成されなかつたが、仲間づくりができた」や「結果はいまいちだったが、みんなで考える習慣ができた」など、それが地域にとって力となる。これはプロセスゴールとしては高い評価が付けられる。そして事務局からの説明にもあったが、次の計画の材料にしていきたいため、実績や効果だけではなく課題を見つけていただけると良い。行政の仕事は委員の皆さんが必要もし関わっていることではないと思う。若い方は高齢者向けのことは知らなかつたり、あるいは活動内容によっては行事を知らなかつたりということがあると思うため、この場で意見交換していただいてもよいと思う。実際に評価をしている間は、家族や近所、同じ職場の人聞いたり、色々な人から情報を集めてこの評価をしていただきたい。

⇒グループ（A、B）に分かれ、基本目標1の評価にあたり、グループ内で評価の視点について意見交換や情報収集を行い、実際に評価様式を使用して評価方法の練習を行った。

【事務局】

最初のうちは行政が作った結果を見て、それについての判断になってしまうと思うが、住民目線から考えてこのような取り組みもあるという提案を書いていただくと、次の計画につながる。また、住民評価は、行政が評価したものが独りよがりにならないように、住民の方から御意見をいただいてアップダウンさせる目的があるため、行政の結果だけを見て評価するよりは「自分たちだったらこう思う」という視点で自由に評価していただければ良いと思う。難しいとは思うが、行政評価だけにこだわらないでいただければと思う。

【稻垣先生】

この評価をしていただくと難しいという声が聞こえてくるし、評価しようと思って丁寧に一文一文読んでみて「あれ、うちの村の中にこんなことあったんだっけ」と思うことがあったと思う。「今まで行政に任せておけば大丈夫だ」という状況から、このように皆さんに悩んでもらうまでに辿り着くまで10年以上かかった。最初は勉強会に参加していただくことも難しい状況であった。話し合いを依頼しても、「役所で予算を付けてから考える」というようなことも言われ、なかなか箸にも棒にもかからない状態が20年以上あった。それが毎週各地区を歩き、皆さんから色々なことを教えていただくことを繰り返していく中で、徐々に会議に参加してもらえるようになった。そして今この地域福祉推進会議がいいなと思うのは、若い世代が参加してくれるようになったことで、このような機会でもなければ村に地域福祉計画があると知る機会もなかつたのではないかと思う。ぜひ中高の同級生に地域福祉計画を知っているか聞いてみてほしい。言葉や中身は難しいと思うが、皆さんの暮らし一つ一つに跳ね返っている。もっと丁寧に考えていかなければならることは、この場に来ることができない人たちの暮らしに影響を及ぼしているというところである。ぜひ周りの人たちの声を集めてきてほしい。一緒に色々な役割を負っている人たちに声をかけてほしい。お子さんやお孫さんなど地域福祉計画子ども版の年齢に該当する方に聞いてみてほしい。わかりやすかったかどうか、東海村に愛着を持ってくれたり、大人たちと一緒に東海村の一員として考えなければいけないと考えるきっかけになったかどうか、あるいはこの子ども版をもっとわかりやすく、もっと良くするためのアイデアなどがあればぜひ聞いてきてもらえるとありがたい。今日はお互い情報交換してみて、皆さんが聞いたことがないものは、行政がA評価を付けてもそれは皆さんへの周知度が足りないため、見たことや聞いたことがないもの、あまり役に立っているとは思えないものなどはあまり評価できないという評価を付けて

いただき、行政の一方的な評価に対して、住民側から「情報が届いていない」、「もっと参画しやすいものにしてほしい」という評価をしていただいて良いと思う。みんなで東海村の今をより良いものにしていくためにより厳しい評価をいただけるとありがたい。よろしくお願ひする。

【事務局】

- ・事務局で各委員の基本目標1の評価様式を回収し、点数化。
- ・引き続き配布資料に基づき基本目標2～3について説明を行った。

⇒基本目標2～3について、引き続きグループ内で意見交換や情報収集を行い、評価方法の練習を行った。

【稻垣先生】

皆さんの話し合いの内容を聞かせていただいていると、だんだん話し合いの仕方が上手になっている。勉強会を始めたころに比べて手の進みが早くなっていると感じる。情報交換の仕方も上手になっていると思った。その情報交換の仕方を家や参加している団体でも活用していただかと良いと思う。皆さんに夏休みの宿題を課さなければならぬのは大変恐縮だが、ぜひ取り組んでいただきたい。

（2）第4次地域福祉計画 基本理念・基本目標について

- ・事務局から前回の会議での協議内容をもとに作成した基本理念を提案した。
⇒基本理念について委員承認。
- ・事務局から配布資料に基づき基本目標について説明した。
⇒基本目標について委員承認。

【稻垣先生】

計画の中に次の計画のための調査を段階的に入れていく。よくやりがちなことは、次の計画を立てる直前に色々な調査をすると、時間が足りなくなりバタバタする。次の計画に向けての準備を今の計画の中で行っていきたい。委員の皆さんのおアイデアを取り入れながら、東海村らしい必要性を見つけ出していきたいと考えている。これまでの積み上げがあるからこそ作れる計画を目指していきたい。事務局にもこのような提案をしたところである。

【事務局】

- ・次回の会議では具体的な施策について各委員より意見をいただきたい。
- ・勉強会にて点数化した結果の報告。

基本目標	平均点	住民評価結果	行政評価
1-1	4.4	A	A
1-2	2.9	A	B
1-3	2.8	A	B

⇒行政評価と比べて各項目2点以上上がっております、住民評価の結果として1-1はA→A、1-2はB→A、1-3はB→Aとなる。

今日の練習の結果を踏まえて、実際に評価する時の目安にしていただきたい。

(3) その他

【事務局】

次の推進会議について、当初は10月を予定していたが、行政評価の内容を説明する機会を設けた後に、住民評価に移った方がスムーズと考えており、9月の開催を検討している。

⇒9月開催について委員承認。

⇒令和2年9月16日（水）午後5時30分から原子力視察研修室で開催することとなつた。

9月以降の会議については10月19日（月）で検討しているため、スケジュール調整をお願いしたい。

【稻垣先生】

今日も色々と勉強させていただいた。くれぐれも皆さん健康に留意して過ごしていただきたい。東京はコロナウイルスよりも熱中症で亡くなる方の方が多い状況であるため、御身大切に活躍していただきたい。

6 閉 会